

がん相談支援センターPDCA実施状況チェックリスト：がん相談支援センタープロセス指標

アウトカム			プロセス				
患者や家族および市民			がん相談支援センター			★実施状況に○×を入れる	
最終目標	準最終目標	必要な条件	必要な条件・状態		○：実施 △：検討中 ×：未実施	PRしたいこと 特に課題と なっているこ と	
・困っている患者・家族が減る	・頼りにできる人・相談の場がある（寄り添う）	相談の場があると感じる人が増える 相談支援センターの役割を知っている人が増える	その人にとってアクセスしやすい相談場所・相談の入り口がある  多様な相談先がある  複数の相談場所がある	1-1-1	○		院内・院外での相談対応件数
				1-1-2	○	外来・病室・市民公	
				1-1-3	○	5 患者会、メディカルカフェ、患者代	
		患者が孤立しない	情報や助けを求めている人に気づく人が増える	1-1-4	○	ちらし、相談員名刺	担当医から紹介された相談件数
				1-1-5	○	退院前カンファレンス	
				1-1-6	○	連携室、緩和ケアチーム	
				1-1-7	○	医局会、リーダー会	
			適切な相談窓口につながる人が増える	1-1-8	○	外来カンファレンス、管理	
				1-1-9	○	院外、院内医療者から	
				1-1-10	○		
				1-1-11	○		
				1-1-12	○		
		患者同士の交流が可能になる	・患者間の運営や協力をする ・患者会活動の支援をする	1-1-13	○	情報サロン冊子作成	患者サロンの開催数
				1-1-14	○	情報サロン冊子作成	患者サロンの開催数
				1-1-15	○	毎回メディカルカフェ開催	患者サロンの開催数
				1-1-16	○		患者サロンの開催数
				1-1-17	○		患者サロンの開催数
				1-1-18	○	患者会代表者会議の	
				1-1-19	○	がんサバイバーネット	
	・患者が自分らしい生活ができるよう問題の解決ができる	(がん罹患後の) 生活の見通しが立つ	相談対応の質が担保されている ・(相談員が) 相談者のがんや状況の理解を助けることができる ・(相談員が) 相談者に適切な情報や支援を通じてエンパワメントすることができる 相談対応の質が担保されている	1-2-1	○	2017年度継続	相談員の研修受講者数
				1-2-2	○	2017年度指導	相談員の研修受講者数
		問題の解決法・対処法が増える	・(相談員が) 相談者に適切な情報や支援を通じてエンパワメントすることができる 相談対応の質が担保されている	1-2-3	○	免疫チェックポイント阻	相談員の研修受講者数
				1-2-4	○	院内○ / 県内×	相談員の研修受講者数
		問題や困りごとの原因が減る	・困りごとの本質を見極め、困りごとに対する術や情報を提供できる  相談員間、相談支援センター間で、起きている課題の共有や解決法の情報共有ができる	1-2-5			相談員の研修受講数
				1-2-6	○	相談員間での随時カン	
				1-2-7	○	集学的がん診療セン	
	・患者中心の(その人なりの)意思決定が可能になる	納得して治療を選択できる	相談対応の質が担保されている ・科学的根拠に基づく信頼できる情報が提供できる ・理解を促進する説明ができる ・医師や看護師等へ理解を促進するような橋渡しができる	再掲	○	2017年度継続	相談員の研修受講者数
				再掲	○	2017年度指導	相談員の研修受講者数
				再掲	○	免疫チェックポイント阻	相談員の研修受講者数
		意志決定に必要な情報が得られる	・医師や看護師等へ理解を促進するような橋渡しができる	再掲	○	院内○ / 県内×	相談員の研修受講者数
				再掲			相談員の研修受講者数
		医療者とのコミュニケーションがうまくいく		1-3-1	○	国立がんセンター研修資料に基づ	相談員の研修受講者数
				1-3-2	○		相談員の研修受講者数
				1-3-3	○	相談員3名で実施	相談員の研修受講者数
				1-3-4	○	緩和ケアチームラウンドリストで対	
				1-3-5	○	退院支援室、メディ	
		公平・中立な相談の場が確保される	だれでも相談できることを明示し、保障している 匿名で相談対応できることを明示し、保障している 個人の情報は保護され、適切に扱われる体制がある	1-3-6	○		匿名の相談件数
				1-3-7	○		匿名の相談件数
				1-3-8	○	院内個人情報規則の	
	・(患者・家族・市民から見て)適切に対応できる医療者が増える	十分な説明、必要な情報を得られる  治療や治療以外の心配や不安について表出しやすくなる	患者・家族が適切に相談窓口に行き着ける。またそのための流れや体制がある（院内・院外・地域から）	1-4-1	○		院内医療者から紹介された相談件数
				1-4-2	○		院内医療者から紹介された相談件数
				1-4-3	○	健診センターとの連携	
				1-4-4	○	院内○	

（がんになっても）安心して暮らせる	・社会に、がんに対する対応力が醸成される	社会の支えが感じられる	広報活動が行われている	2-1	○		相談支援センターに接触した住民の数、割合
				2-2	○	がん相談員ワーキングで	相談支援センターに接触した住民の数、割合
				2-3	○	福井新聞への掲載	相談支援センターに接触した住民の数、割合
				2-4	○	相談員3名参加	
		情報啓発の場が確保される	がん対策や治療に関わる新しい情報の発信ができる	2-5	○		患者や市民向けの講演会の数（院内・出前の両方）
				2-6	○		患者や市民向けの講演会の数（院内・出前の両方）
				2-7	○		患者や市民向けの講演会の数（院内・出前の両方）
				2-8	○	7月：市民公開講座 9月：がん教育教室 10月：健	患者や市民向けの講演会の数（院内・出
				2-9	○	化学療法講演会、放射線療法	
		地域のネットワークの構築	地域に相談支援センターの周知が定期的に行われている	2-10	○	別紙 地域へのPR方法、取り	院外での場での講演会の数
				2-11	○	別紙	院外での場での講演会の数
				2-12	○	がん相談員ワーキングでの取り組み	院外での場での講演会の数
				2-13	○	がん相談員ワーキングでの取り組み	